

序章 調査研究の概要 ・ 第1章 静岡市の現状

- ★ 静岡市生物多様性地域戦略は、静岡市環境基本計画の下に位置付けられた個別計画として定められている。目標期間を2020年に設定しており、見直し時期が迫っている。
- ★ 最新の生物生息域調査等による現状及び課題把握、これまでの取組評価、静岡市の特色を生かした生物多様性保全施策の検討から、現行戦略の見直しを目的とする。

現行地域戦略策定時からの生物多様性に関する変化

- 1 生物多様性を取り巻く自然環境の変化：動植物種数の減少、里山荒廃、耕作放棄地の増加
- 2 外来生物・有害鳥獣の生息域拡大：在来生物との競合、農作物被害の拡大
- 3 生物多様性保全に対する理解・行動の普及：自然とふれあう機会の減少
- 4 担い手・人材の育成・確保：生物多様性保全活動の継続が困難

第2章 生物多様性の主流化を取り巻く状況



- ★ 「生物多様性」：地球上に存在するすべての生物の間に違いがあること。
- ★ 「生態系サービス」：我々の生活を支える、食物や水、気候など、様々な生きもののつながりによって供される恵みのこと。生物多様性は生態系サービスの源とも言えるため、我々が将来の世代にわたって様々な生態系サービスを楽しむためにも生物多様性の維持・回復は重要。
- ★ 「生物多様性の主流化」：生物多様性の保全と持続可能な利用の重要性が、国、地方自治体、事業者、NPO・NGO、国民などの様々な主体に広く認識され、それぞれの行動に反映されること。

(参考) 3つのレベルの生物多様性



生物多様性の維持・回復と持続可能な利用を通じて、自然共生社会を実現

第3章 静岡市の生物多様性取組の評価と課題

評価・調査

課題分析

- 1 都市の生物多様性指標に基づく評価  
全国的・相対的な評価を行う手段のひとつとして、国土交通省都市局が発表した「都市の生物多様性指標」を用いて市の生物多様性保全の状況の評価。
- 2 関係団体等へのヒアリング  
環境や生物に関連した専門的な活動をしている6団体へ、静岡市の生物多様性・自然環境等に関する評価、課題等について直接面談によるヒアリング調査を実施。
- 3 外来生物等各種生物の生息状況  
文献による既存調査での動物種の生息状況調査、自動撮影カメラによる外来種等の生息状況調査を実施。
- 4 現行の生物多様性地域戦略に基づく事業実施状況の評価  
リーディングプロジェクト進捗評価、市関連事業の分類整理による取組評価を実施。
- 5 環境教育・環境保全活動に関するアンケート調査  
環境教育及び環境保全活動に関係する市内の市民団体、教育関連施設、幼稚園・保育園・こども園、中学校、高等学校、企業・事業者を対象にしたアンケート調査を実施。

課題・要因	解決手段	期待される状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>既存の団体は外部とのつながりが限定的であり、参加者の伸び悩みや活動の場・機会が広がらない。</li> <li>新しい団体メンバーなどの加入が少ないなど新陳代謝が弱く、リーダー育成に課題がある。</li> <li>市街地での取組が比較的弱く、緑化等の対応が求められる。</li> </ul>	団体間の連携や企業協力及び情報発信力の強化	市民・企業等の理解・協力、環境関係団体等の連携と活性化による継続的な生物多様性保全体制の整備
<ul style="list-style-type: none"> <li>自然や生きものに興味・関心がある市民の層が限定的。</li> <li>まちなかで自然に接する機会が減少している（立ち入り禁止区域の増加）。</li> </ul>	市民モニタリングの実施、専門機関等の調査	市民の身近な自然への理解と生物多様性保全への危機意識醸成
<ul style="list-style-type: none"> <li>里山の荒廃により、生態系・生息域に大きな影響が見られる（鳥獣被害の増加、昆虫類・鳥類の種や個体数の減少）。</li> <li>所有者の合意が得られないこと、運搬路が整備されていないこと、人手が不足していることから竹林の伐採面積を広げられない。</li> </ul>	「里山」の適正な定義、作業環境の整備、活動情報の発信	適正な評価に基づく里山等環境整備の拡大
<ul style="list-style-type: none"> <li>ライフスタイルの変化により、子どもの環境関係プログラムへの参加ハードルが高くなっている。</li> <li>自然とのふれあい方がわからない子どもが増えている。</li> <li>学校同士の環境教育に関する情報共有が停滞している。</li> <li>総合学習で独自の環境教育を行う学校は少ない。</li> </ul>	身近な自然とのふれあいの場の創出、学校教育だけに頼らない環境教育学習プログラムの創出	幼児期から／家庭で自然とふれあえる場の創出
<ul style="list-style-type: none"> <li>アライグマ等外来生物の分布拡大が進んでいる。</li> <li>分布拡大経路として他市域からの流入が見られる。</li> <li>有害鳥獣について、地域ごとの駆除になるため、別の地域に逃げてしまう。</li> <li>昆虫、鳥類や植物についても外来生物の生息域が拡大している（例：アカボシゴマダラ、ガビチョウ、オオキンゲイク等）。</li> </ul>	県・近隣自治体との連携、免許・許可申請支援、分布等状況調査の実施	広域的な取組体制の整備による効果的・継続的な外来生物・有害鳥獣対策の展開



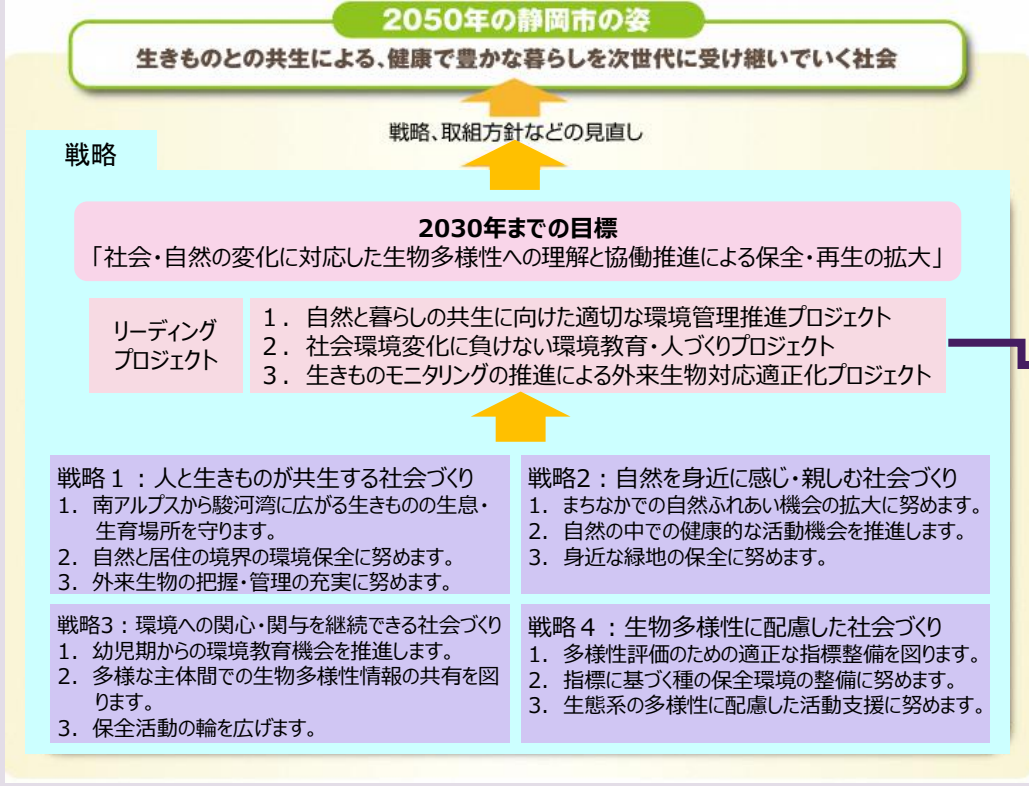
# 第4章 次期戦略の目標案

★ 2020年目標（現行地域戦略目標）「生物多様性の考え方の普及と保全・再生の着手」の進展

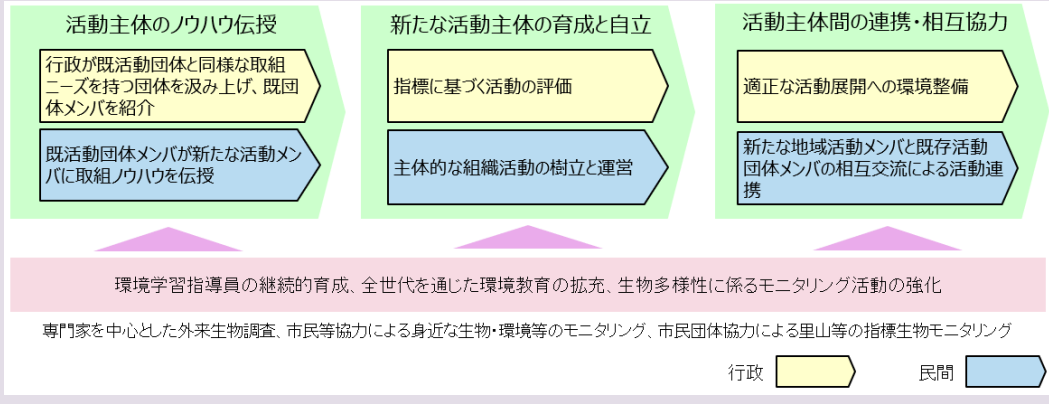
## 2030年目標案

**社会・自然の変化に対応した生物多様性への理解と協働推進による保全・再生の拡大**

★ 10年単位での段階的なアプローチにより、最終的な2050年目標「生きものとの共生による、健康で豊かな暮らしを次世代に受け継いでいく社会」への到達を目指す。

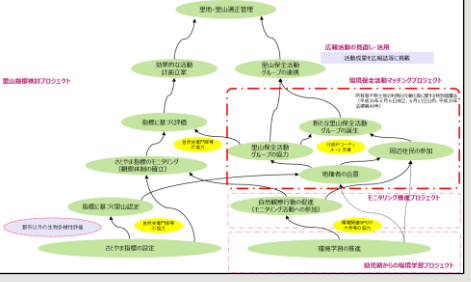


★ 多様な主体との交流や連携の機会を確保するために、行政は様々な交流、関係構築のためのコーディネーターとしての機能をより一層発揮していくことが求められる。

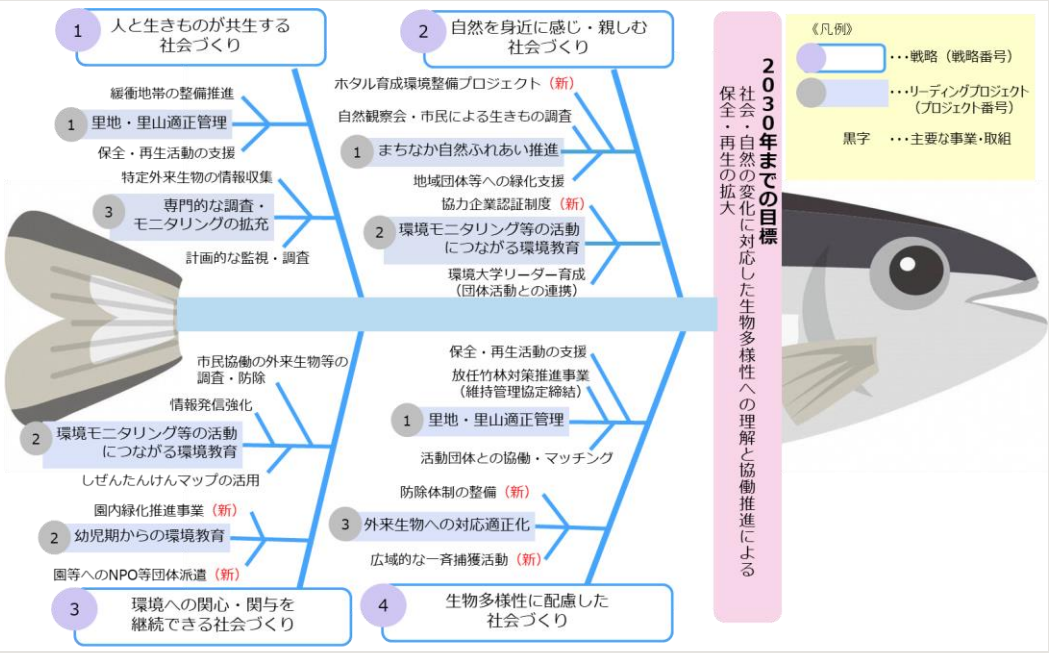


# 第5章 リーディングプロジェクト候補案

★ リーディングプロジェクト候補案全体像  
…次期戦略の構成における主要なリーディングプロジェクト・取組を整理。（右図参照）



↑プロジェクトごとにプロセスを整理し、戦略マップを作成



# 第6章 次期生物多様性地域戦略案と役割

★ リーディングプロジェクト候補案

- 1 自然と暮らしの共生に向けた適切な環境管理推進プロジェクト**
  - ★ 広がる森林の維持管理など、**里地・里山の適正管理**に取り組む
  - ★ イベント開催を通じた団体交流と活動領域拡大を目的とした、**まちなかでの自然ふれあい活動**を推進する
- 2 社会環境変化に負けない環境教育・人づくりプロジェクト**
  - ★ **幼児期からの環境教育**に力を入れる
  - ★ **環境モニタリング等**の活動につながる環境教育を推進する
- 3 生きものモニタリングの推進による外来生物対応適正化プロジェクト**
  - ★ 種の保存や生態系の保護等の多様性に係る**外来生物等への対応適正化**に取り組む

各プロジェクトの役割整理

- **行政**
  - ★ 各主体の活動に係る環境整備・コーディネート業務
- **市民、団体、教育・研究機関**
  - ★ 事業への参加、モニタリング等の協力、交流促進
- **企業**
  - ★ 活動の場の提供、緑化推進等への協力、団体活動支援

主体	理解・啓発	情報共有	活動構築	活動展開
国・県				
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>里山広域の現状紹介</li> <li>里山広域による生物・生活環境への影響説明</li> <li>保全すべき里山の地域者への働き掛け</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現状と活動に関する情報収集・発信</li> <li>広域連携への機軸</li> <li>HP等による団体の情報発信活動支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>里山認定</li> <li>モニタリング指標検討</li> <li>活動情報発信支援</li> <li>里山保全推進委員会</li> <li>里山保全活動協力の募集・受付（資材提供、資源活用含む）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標設定と計画の策定</li> <li>支援</li> <li>活動連絡会等の開催</li> <li>活動連絡会創出（グループ交流機会創出）</li> <li>活動支援助成金確保</li> <li>計画に基づき活動</li> <li>保全活動状況の評価</li> </ul>
近隣自治体				
市民		<ul style="list-style-type: none"> <li>観察情報投稿</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保全活動への参加</li> <li>モニタリング指標への協力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保全活動への参加</li> <li>指標生モニタリング</li> </ul>
自治組織		<ul style="list-style-type: none"> <li>広報協力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保全活動への協力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市や団体への相談</li> </ul>
市民・企業				
NPO等団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>里山保全活動の情報発信</li> <li>里山保全活動参加呼び掛け</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動課題と解決策、活動ノウハウ、活動協力内容等を共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>類似団体との交流</li> <li>参加呼び掛け</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>連絡会等への参加</li> <li>新たな活動グループの連携力</li> <li>計画の策定</li> <li>ノウハウ蓄積</li> </ul>
里地・里山の地域者（監視）		<ul style="list-style-type: none"> <li>里山等の現状報告</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指標に基づく認定申請等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動グループの管理依頼</li> <li>里山保全活動協力</li> </ul>
民間企業	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境貢献活動発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資材等の提供協力</li> <li>竹材・若竹等の資源活用協力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SDG's協賛推進</li> <li>資源活用</li> </ul>
教育・研究機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育園・幼稚園</li> <li>小中学校</li> <li>高等学校</li> <li>大学・研究機関</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境教育</li> <li>環境学習</li> <li>環境リソース情報発信</li> <li>研修・市民講座協力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>近隣の保全活動情報収集</li> <li>モニタリング指標検討協力</li> <li>保全活動への協力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>里山散策等体験学習</li> <li>SDG's協賛体験学習</li> <li>調査研究参加</li> <li>里山生息調査・研究</li> <li>保全活動評価協力</li> </ul>

↑プロジェクトごとに役割整理図を作成

## リーディングプロジェクト推進スケジュール（イメージ例）

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目
理解・啓発 情報共有	情報発信	情報共有	情報蓄積	情報発信・共有・蓄積・分析						
活動構築	相談窓口運用		活動主体間のマッチング			活動ノウハウの共有			活動ノウハウの更新・高度化	
	活動への関心拡大		活動への参加拡大		活動グループの創出		新たな活動主体の自立		団体等への活動支援	
活動展開	活動協力				連絡会・協議会等による交流機会の創出			活動主体間の連携相互協力		